

職場の問題研究部会

I 研究テーマ

「ゆとりある学校づくりをめざして」 ～自分たちにできるエコ活動 ～

II 研究テーマ設定の理由

近年、地球温暖化や緑の危機等環境問題に対する関心も深まり、私たちの身近な生活もごみの分別、省エネなどを心がけるようになった。特に、東日本大震災後は、エネルギー対策についても大きな課題となっている。

甲府市においてもごみ問題や環境問題を取り上げて、環境教育副読本を作成や、2011年度までに小学校9校、中学校2校に太陽光発電を導入設置した。冷暖房機運用ガイドラインを設けるなど温暖化対策やエネルギーの経費節減のとりくみを行っている。

私たちは、今年度も引き続き、自分たちにできる学校でのごみの分別やエコ活動などを実践するとともに、実態をより具体的に調査してきた。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

- 4月11日（木）研究組織と研究テーマについての検討
- 5月14日（火）研究テーマの決定と研究計画の作成
- 6月18日（火）学校でのごみに対する取り組みの検討
- 7月31日（水）各校実践交流、アンケート集計及び検討
- 8月16日（金）臨地研修
- 9月 3日（火）アンケート分析、全体討論
- 10月 1日（火）レポート内容の検討と作成
- 11月 5日（火）県教研の還流報告・研究のまとめ
- 1月21日（火）今年度の反省及び来年度の方向性

2 研究内容

(1) ごみ量調査

今年度も期間を設け調査した。結果をグラフにし、成果と課題を分析をした。

- ・ ごみをまとめることにより袋の数を減らす努力をしている学校が増えている。
- ・ ミックスペーパーとごみの区別について職員にも児童生徒にも理解が広がっている。
- ・ ミックスペーパーとその他のごみの分別がされていないものもある。
- ・ 学校により状況は異なるが、可燃ごみ袋の総数は減っている。
- ・ 可燃ごみの袋数の急激な増減は、樹木の剪定等の環境整備や児童生徒数の増減に影響されている。

(2) 啓発資料作成・活用

「あなたにもできるきちんと分別リサイクル」をキャッチフレーズに分別の仕方の表作成し啓発活動をしてきた。

今年度は、昨年度作成した教室用表示・ごみ箱表示の活用状況のアンケートと、ごみ袋軽減に向けた実践活動にとりくんだ。また、大型マグネット絵本を作成して楽しみながら学んでもらい、今後の活動に生かしていくようにアンケートを実施した。

① 教室用表示、ごみ箱表示の活用状況のアンケートの結果

掲示場所は、教室掲示用はごみ箱近く、ごみ箱表示はごみ箱に直接という回答が多かった。新たにごみ、ミックス箱を分けて設置したという回答もあり分別の意識を持ってもらうことができた。

活用状況や表示したことによる変化として、児童、生徒に話をしてから掲示したところも多く、環境の授業でも使用されている。

表示を見ることで、分別に迷っていたものが分かるようになり、ミックスペーパーとごみの分別をさらに意識するようになった。素材に興味を持ったり自分で考えて分別するようになったことも意識喚起がはかれた。

職員からは、表示することで、分別に迷っていたごみとミックスペーパーの分別の仕方がはっきり分かったという感想や良い環境資料という内容もあった。

身近に感じられるよう教室でよく出るごみやミックスペーパーを選び出したことも利用しやすく意識を高めた。

② 啓発資料の作成と活用事例

今年度は、大型マグネット絵本を作成し授業や研究会にも掲示して広く啓発活動を行った。授業終了後、児童の意識の高まりや感想を知るために行ったアンケートでは、全員が「たのしかった。」と答えた。間違えた物も「今後正しく分別できそうですか？」の質問に全員が「はい」と答え学習に成果があった。マグネットの引き合う力と反発を利用したので、子どもたちの興味を引き楽しく学べ好評であった。

今後も子どもたちが興味を持って学び自然と身につけることができるよう工夫した資料作りと資料活用を広めるなどの啓発活動をしていく。

(3) ごみ減量のための活動（S小学校）

S小学校では、ごみ量調査とごみに対する意識アンケートでわかった「いっぱいに入っていないごみ袋が多い」「ごみ袋自体も可燃ごみとなってしまう」という問題点から、ごみ置き場に設置した袋に各学級から持ってきたごみを回収するという集め方の工夫で、ごみ袋減量化のとりくみを始めた。ごみ量調査でも成果がわかる。

(4) 臨地研修について

東日本大震災での原子力発電所事故後、安全性や安定性などエネルギー対策について

大きな課題となっている。これからは太陽エネルギー、風力、水力などいろいろなエネルギーについて学び、次世代エネルギーについて考えていかなければならないことから、山梨県のクリーンエネルギーへのとりくみでもある「米倉山太陽光発電所」を見学した。

山梨県営電気事業施設の概要や山梨県内で出力される電力量と県外からの電力量、米倉山太陽光発電所の電力量の割合、CO2削減効果、安全性、安定供給などについて、これからのエネルギー問題を考える良い機会となった。

電力蓄電装置などの展示や球体スクリーンで地球環境について分かりやすく解説されており環境問題へのとりくみの必要性を改めて感じた。

IV 研究の反省と課題

緑の危機や大気汚染・水の汚れ・温暖化など環境とエネルギーを考えたとき、私たちの生活が大きく影響していることがわかる。

今までの甲府市の環境センターとリサイクル業者の見学や学習から分別を進めるとりくみの必要性を感じた。また、ごみを減らすことで地球環境を守ることにもなることが分かった。

そこで、私たちにできることは何か、身近なことから始めてきた。

ごみ量調査と、職員へのごみに対するアンケートをふまえ「ごみの中にミックスペーパーが多く交じっている」「ミックスペーパーとごみの分別ができていないものは何か」「ミックスペーパーと可燃ごみの分別等は意識してとりくんでいるが、区別がつかず迷っているものは何か」など調査をとおしてわかったことをまとめ、教材にも使用できる掲示用資料の作成やごみの集め方を工夫して啓発活動を行ってきた。それによって、かなり分別の仕方がはっきりしてきた。

今後は、今まで行ってきた調査や啓発資料作成を活用し、自分たちにできるエコ活動をさらに家庭でもとりくんでいけるよう広めていきたい。

学校の省エネについても、節電・節水の意識は高まり、緑のカーテン、電気の消し忘れ注意、プールでの節水、換気の実施、ファンヒーターの使用規定を設けるなどとりくみを行っている。

しかし、近年、夏の気温が上昇してきているなど環境の変化によって、児童生徒の学習環境も厳しくなり、昨年度は中学校に、今年度から小学校にも順次エアコンが設置されている。今後、電力の不足で節電の意識も高まっている中、使用エネルギーの増加や環境問題を引き起こす悪循環とならないように「甲府市立学校冷暖房機運用ライン」が設けられている。健康の保持増進、良好な職場環境の確保、環境負荷の軽減、経費節減をめざした具体的なとりくみがさらに必要となってくる。